

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-13 (電話) 011-775-7580		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年4月4日

## 【情報提供票より】 (20年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	11月	21日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	14人,	非常勤 2人, 常勤換算 8.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均日額)	1日 3500 円	その他の経費(日額)	4~9月300円 10~3月400円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	280 円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

### (4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4	要介護2	4		
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5	3	要支援2			
年齢	平均 86.8 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌恵北病院・たにぐち歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、社会福祉法人が札幌市内に展開する高齢者福祉施設のひとつで、グループホーム5カ所を有する。広大な百合が原公園を目の前にし、JR駅にも程近くて交通の便も良い、閑静な住宅地に位置する。敷地をたっぷりとって、広い芝生の庭や畑に囲まれた建物は真新しく、高い吹き抜け天井の天窓から明るい光が差し込んで、高級邸宅の風情である。管理者は若いながら経験豊かなベテランで、職員にもよく慕われ、よいチームワークで家庭的な温かい介護を実現している。利用者は穏やかな表情で、時折楽しそうな笑い声を上げながらくつろいでいる。職員が利用者の楽しみを引き出すために手芸、書道など、熱心に誘導、工夫しているのも特徴的である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された、全スタッフが応急手当を行える組織体制の確立は、マニュアルを整備し、新人教育を徹底するなどして改善した。注意が必要な物品の安全管理については目に見えぬ、手の届かぬところへの保管、夜間施錠などにより改善した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を全職員に配布し、会議で説明した上で各人の意見を求め、これを管理者がまとめて作成した。管理者、職員とも、自己評価によって、個別の課題にとらわれがちな日ごろの介護を、総体的に見渡して振り返るよい機会として、積極的に受け止めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの運営状況として、医療連携体制を取り入れたこと、防災体制の現況とスプリンクラー取り付けの予定、災害時の協力要請などについて話し合われている。参加者からの提案を活かして、煙探知機を設置し、子ども110番を受託することを実現した。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内に意見箱を設置し、法人内に苦情受付の第三者機関を設けて入居時に家族へ説明している。苦情が寄せられた場合には管理者が連絡を取り、直接訪問するなどして詳しい事情を聞くとともに担当者からも事情を確認する。必要に応じて検討会議を実施し、具体的対応を行う。記録は台帳に保管し、再発防止に役立てている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会の幹部がホーム設立の当初から好意的に付き合いを求めてきて、良好な関係が築かれている。町内会の賛助会員として、夏祭り、新年会などの行事に参加するほか、総会にも出席している。近隣の小学校の総合学習のための来訪を受け入れ、また学習発表会の招待を受けて参観に行っている。小学生が、花壇に植えてください、といって花の種を持ってこることもある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で一緒に暮らし支えあい、地域の中でその人らしく生活ができるように、との基本理念と、心、身体、家族、社会的の4つの緩和を目指す理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員がカードにプリントしたものを常時持ち歩いており、ミーティングで取り上げ、折に触れて話題にしている。事業報告書は理念に基づいて作成されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の幹部とは良好な関係が築かれている。町内会の賛助会員として、夏祭り、新年会などの行事に参加するほか、総会にも出席している。近隣の小学校からの総合学習のための来訪を受け入れ、また学習発表会の招待を受けて参観に行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に配布し、会議で説明した上で各人の意見を求め、これを管理者がまとめて作成した。管理者、職員とも、自己評価によって、個別の課題にとらわれがちな日ごろの介護を、総体的に見渡して振り返るよい機会として、積極的に受け止めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況として、医療連携体制を取り入れたこと、防災体制の現況とスプリンクラー取り付けの予定、災害時の協力要請などについて話し合われている。参加者からの提案を活かして、煙探知機設置を設置し、子ども110番を受託することを実現した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北区保健福祉課の担当者とは懇意にしております、入居や年金などの相談で訪問しているが、さらにテーマを広げて連携を深めることを考えている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、受診の状況などは、定期的ではないが、家族が来訪した折に詳しく伝えている。家族は平均して週に1回以上は来訪しているので必要な連絡はこのときで尽くされている。金銭出納明細は毎月発送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、法人内に苦情受付の第三者機関を設けて入居時に家族へ説明している。苦情が寄せられた場合には詳しい事情を確認し、必要に応じて検討会議を実施し、具体的対応を行う。記録は台帳に保管し、再発防止に役立てる。	○	苦情にまで至らない希望や意見などは職員や管理者が適宜対処し、日誌に記録するなどしているが、それらもできるだけ、受付、検討、処理の経過を台帳に記録し、改善に反映させるよう、期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本人希望の離職など、やむを得ない場合のほかは異動はしていない。異動があった場合、利用者に対してはそれぞれの認知の状況に応じて、タイミングを見ながら事情を説明している。新人が入った場合は馴染みの職員がしばらくフォローするようにしてダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としての職員教育計画に基づいて研修派遣や法人内研修を行っている。法人の規模が大きく、包括的な職員の教育体制が整っており、年間6回程度の内部研修が主体になっている。資格年限のある者には順次認知症介護実践者研修を受けさせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市および北区のグループホーム管理者連絡会で交流し、管理者向け、職員向けの研修を行ったりなどしている。連絡会で職員レベルでの相互訪問もたびたび話題には上っているが、管理者同士の意見の違いや職員の引き抜きへの懸念から、実現していない。	○	当ホームの意向だけではいかんともしがたい部分はあるが、同業者に働きかけて、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動ができるような関係づくりに動くことを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居決定に先立って管理者が自宅を訪問し、見学に来訪を求めるなど、十分納得を得ての入居となるよう努めている。入居の当初は、できるだけ部屋から出てもらうよう、まずは離れた居場所に誘い、次いで気の合いそうな利用者のそばに誘うなどして、馴染めるような工夫、努力をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の野菜の手入れ、料理の味付け、雑巾の縫い方、包丁の研ぎ方など、多方面にわたって利用者の知恵や経験に学ぶ機会は多い。軍隊経験や現役時代の仕事の話聞く中で、多くのことを教えられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから職員は利用者との会話の中から何気ない本音の表明に耳を傾け、それを管理者が収集して思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。意思表示の困難な利用者については家族と相談しながら本人本位に対応している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所独自のアセスメントシートを作成し、利用者、家族の要望を聞き、職員全員で話し合い、日頃の個人記録も取り入れ介護計画を作成している。作成後の介護計画は、可能な限り利用者を交え、家族には必ず説明して確認を取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っている。入退院後などの体調変化時には、随時介護計画の見直しを行っている。季節に応じて、活動に変化が生じる利用者は、夏季と冬季で介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携体制を取っている。入院回避をして、看護師が付いて事業所で点滴治療を行った経緯がある。協力病院以外の通院介助は家族が行っているが、状況により職員が通院介助をするなど、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望に応じて、かかりつけ医の通院介助も柔軟に対応している。家族から協力医に変更してもいいと言われても、通院介助をして、利用者の健康状態が安定してから変更した経緯もある。協力医による、月2回の往診や時間外の対応も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期に向けた説明を行い、必要に応じて随時家族の意志の確認を行っている。家族から今後について相談を受けた時は、主治医へ相談し、関係者で対応を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の希望で呼び方を決めたり、育った場所や以前の仕事により、言葉使いを変えたりして個々に合わせた対応をしている。法人として、個人保護の規約があるので、規約に沿って書類はしっかり保管している。面会簿も箱に入れて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の安全と介護の必要に応じて、起床の声かけをしている。利用者が気持ちよく満足出来るように、買い物も1対1で出かけたりする。利用者がやりたい事を話しかけてきそうな時は、気軽に言えるような雰囲気作りに心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望や季節毎のメニューを入れながら、1週間毎に作成している。もやしやの芽取り、食事の前準備や後片づけなど、個々の習慣に合わせて利用者が楽しみながら行えるようにしている。職員も利用者と一緒に同じテーブルで楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、月、火、木、金に予定しており、週2回の入浴を目標にしている。希望者は、週4回の入浴をする事も可能である。入浴拒否者に対しては、原因を考え、柔軟に対応し、本人が納得して気持ちよく入浴出来るようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居間などのカーテンの開閉や、振り子時計を毎朝作動させたり、日めくりをめくるなど、個々に合った役割分担で張り合いのある生活が出来るようにしている。習字やパッチワーク、リースなど色々な制作に取り組み、楽しみと達成感を味わえるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外は、暖かい日はベランダで過ごしたり、近くの百合が原公園に散歩に出かけている。2週間に1回、石狩市の図書館に出かけたり、利用者の希望に応じて喫茶店や個別での買い物に出かけている。冬季も、図書館と月1回の買い物に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中は施錠することなく玄関にセンサーをつけて、利用者が外出する時は、声かけをして一緒に外出している。職員が意識して、利用者の仕草や行動を察知してすぐ対応出来るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回職員が利用者というシミュレーションで避難訓練を行っている。近隣には、運営推進会議で避難した時の利用者の見守りなどをお願いして協力が得られるようにしている。新人研修時にも、消火器、消防設備の取り扱い、避難経路の確認をしている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食記録し、水分量は体調の変化など利用者に応じて必要な時のみ記録している。水分量は、必要量が摂取出来るようにまめに水分補給を促している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間に、ゆったり利用者がくつろぐ事ができるソファが置かれ、台所の匂いなど生活感を感じて過ごせるようになっている。壁には、利用者が制作した季節の作品や、沢山の手芸作品が額に入れて飾られ、季節感を感じて居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとベッド、トイレが設置されている居室に、利用者の使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれ、個性のある落ち着いた居室になっている。入り口には、利用者毎に職員手作りの表札がかけられ、自宅玄関のような雰囲気を感じる事ができる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。